



## 外部ツールを使用したイベントの分析

- [によるイベントの分析 Cisco Threat Response](#) (1 ページ)
- [Splunk でのイベント分析](#) (1 ページ)
- [Cisco Security Packet Analyzerを使用したイベント調査](#) (2 ページ)
- [Web ベースのリソースを使用したイベントの調査](#) (10 ページ)
- [接続イベントと侵入イベントの syslog メッセージの送信について](#) (13 ページ)
- [eStreamer サーバストリーミング](#) (24 ページ)
- [外部ツールを使用したイベントデータの分析の履歴](#) (29 ページ)

### によるイベントの分析 **Cisco Threat Response**

Cisco Threat Response を使用して脅威を迅速に検出、調査、対応する Cisco Cloud の統合プラットフォームでは、Firepower を含む複数の製品から集約されたデータを使用してインシデントを分析することができます。

- Cisco Threat Response の一般情報については、次を参照してください。  
<https://www.cisco.com/c/en/us/products/security/threat-response.html>.
- Firepower と Cisco Threat Response の統合の詳細な手順については、次を参照してください。
- <https://cisco.com/go/firepower-ctr-integration-docs> にある『*Firepower and Cisco Threat Response Integration Guide*』

### **Splunk** でのイベント分析

Cisco Firepower App for Splunk を使用し、Splunk 上に転送した Firepower イベント データを使用してネットワーク上の脅威をハントおよび調査します。

詳細については、<https://cisco.com/go/firepower-for-splunk>を参照してください。

# Cisco Security Packet Analyzerを使用したイベント調査

組織が Cisco Security Packet Analyzer（Firepower システムとは別個の製品）を展開している場合、Cisco Security Packet Analyzer を使用して Firepower システムが検出するインシデントや不審なイベントのコンテキスト情報を、フルパケットキャプチャの形式で収集できます。

Firepower Management Center のイベントから複数の Cisco Security Packet Analyzer インスタンスで即座にクエリを実行し、Cisco Security Packet Analyzer の結果を処理したり、結果をダウンロードして Wireshark (TM) などの他のツールを使用したりしてタイムライン分析を実行することができます。

Cisco Security Packet Analyzer および Firepower Management Center は互いに独立して展開され、Firepower システムは Cisco Security Packet Analyzer の導入を認識しません。キャプチャされたデータはパケットアナライザと管理センター間を移動しません。

## パケットアナライザの展開の要件

Cisco Security Packet Analyzer インスタンスを展開する際は次の点に留意してください。

- 最大 500 の Cisco Security Packet Analyzer インスタンスを Firepower Management Center に登録できます。スタック内の各パケットアナライザインスタンスは個別に登録する必要があります。
- この統合でのサポート対象の Cisco Security Packet Analyzer モデルとバージョンについては、<https://www.cisco.com/c/en/us/support/security/defense-center/products-device-support-tables-list.html> の『Cisco Firepower Compatibility Guide』を参照してください。
- 1つのキャプチャセッションで同時に複数の目的に対応でき、クエリによって展開の負荷が過大にならない場合を除いて、Firepower システムで使用するパケットアナライザのインスタンスは一般に、この目的専用とする必要があります。
- Cisco Security Packet Analyzer 分析するトラフィックをキャプチャでき、また、パケットアナライザインスタンスと Firepower 管理対象デバイスが確認するトラフィックが同じである必要があります。
- Firepower Management Center はネットワーク上の各パケットアナライザにアクセスできる必要があります。
- パケットアナライザのインスタンスをセットアップし、この展開の前提条件を満たすには、<https://www.cisco.com/c/en/us/support/security/security-packet-analyzer/tsd-products-support-series-home.html> の Cisco Security Packet Analyzer のドキュメントとパケットアナライザのオンラインヘルプを使用します。
- 各パケットアナライザは、Firepower Management Center とその管理対象デバイスとして同じ NTP サーバを使用して時刻を同期させる必要があります。
- 各パケットアナライザで次を満たす必要があります。

- パケットアナライザへの Web アクセスが有効になっている必要があります。
- クエリのキャプチャ権限を持つ次のアカウントが必要です。
  - **Firepower Management Center** がクエリをパケットアナライザに送信するときに使用するユーザアカウント。
  - 自分と、パケットアナライザにクエリの結果を表示する他の人のユーザアカウント。

Web ユーザパスワードの制限文字については、Cisco Security Packet Analyzer のドキュメントを参照してください。

ヒント：パケットアナライザでこれらのアカウントのクレデンシャルをテストし、機能することを確認します。

- パケットアナライザの Web インターフェイスでクエリが正常に実行できる必要があります。
- [パケットアナライザのキャプチャセッションの要件と推奨事項 \(3 ページ\)](#) で説明したキャプチャセッションの要件を満たします。

これらのタスクの手順については、パケットアナライザのドキュメントを参照してください。

## パケットアナライザのキャプチャセッションの要件と推奨事項

- 各 Cisco Security Packet Analyzer インスタンスでキャプチャセッションを作成する必要があります。
- 各パケットアナライザインスタンスに設定する必要があるキャプチャセッションは1つのみです。
- Firepower Management Center の登録形式のデフォルトキャプチャセッション名は **firepower\_rolling\_capture** です。わかりやすくするために、別の名前を使用する理由がある場合を除いて、すべてのパケットアナライザインスタンスにこのキャプチャセッション名を使用します。
- 残りの値は次のとおりです。

オプション	値
[パケットスライスサイズ (Packet Slice Size) ]	パケット全部をキャプチャする場合はゼロ (0)
ストレージタイプ	ファイル
[ディスク使用率 (%) (Disk Utilization (%)) ]	80

オプション	値
ファイルサイズ (MB) (File Size (MB))	パケットアナライザモデルでベストパフォーマンスを得るための最大サイズ (2000 または 500)
ローテートファイル (Rotate Files)	ローリング キャプチャを有効にする場合に選択
All others	展開で有効な値

- 任意のユーザがクエリを実行する前にキャプチャセッションを実行する必要があります。セッションを保存した後、[キャプチャセッション (Capture Sessions)] ページに移動してキャプチャセッションを選択し、[開始 (Start)] ボタンをクリックします。

## パケットアナライザインスタンスの登録

スマートライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	Admin/Security Analyst

マルチドメイン展開環境では、現在のドメインの Cisco Security Packet Analyzer インスタンスのみを作成、変更、または削除できます。現在のドメインおよび子孫ドメインのパケットアナライザインスタンスに対してクエリを実行し、クエリの結果を表示できます。1つのパケットアナライザインスタンスは複数のドメインに登録できます。

### 始める前に

- Cisco Security Packet Analyzer の展開は、分析するパケットをキャプチャするように [パケットアナライザの展開の要件 \(2 ページ\)](#) のガイドラインに従ってインストールし、設定し、適切に動作している必要があります。
- 各パケットアナライザインスタンスには、[パケットアナライザのキャプチャセッションの要件と推奨事項 \(3 ページ\)](#) のガイドラインを満たす 1 つのキャプチャセッションが必要です。
- 登録するパケットアナライザごとに次の情報を収集します。
  - ホスト名または IP アドレス
  - ポート
  - 接続するために Firepower Management Center が使用するユーザアカウントのクレデンシャル
  - キャプチャセッション名

### 手順

- ステップ 1** [システム (System) ]>[統合 (Integration) ]を選択します。
- ステップ 2** [パケット アナライザ (Packet Analyzers) ]タブをクリックします。
- ステップ 3** [新規 (New) ]をクリックします。
- ステップ 4** この手順のために前提条件で収集した値をフォームに入力します。

キャプチャセッションの名前は、パケット アナライザで設定されているキャプチャセッションの名前と一致する必要があります。

パケットアナライザがCA署名付き証明書を提供しない場合は、[SSL/TLS 証明書の確認 (Verify SSL/TLS certificate) ]を無効にします。

- ステップ 5** [保存 (Save) ]をクリックします。
- システムはすぐに接続をテストして、キャプチャセッションを検証します。
- ステップ 6** 各パケット アナライザ インスタンスに対してこれを繰り返します。

### 次のタスク

まだ実行していない場合は、各パケット アナライザ インスタンスでキャプチャセッションを開始します。

## クエリ パケット アナライザ

スマート ライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	Admin/Any Security Analyst

特定のイベントに基づいて自動的に入力されるパラメータを持つ1つのクエリを使用して最大500の Cisco Security Packet Analyzer インスタンスに同時にクエリを実行できます。



- ヒント** 特定のイベントに基づいていないクエリを実行するには、[分析 (Analysis) ]>[詳細 (Advanced) ]>[パケット アナライザのクエリ (Packet Analyzer Queries) ]を選択し、[新しいクエリ (New Query) ]をクリックします。

### 手順

- ステップ 1** パケット キャプチャ内に含まれているタイプのデータなどのイベントを表示する Firepower Management Center の次のページのいずれかに移動します。

- ダッシュボード ([概要 (Overview) ]>[ダッシュボード (Dashboards) ])、または
- イベントビューアページ (イベントのテーブルが含まれている[分析 (Analysis) ]メニューのメニュー オプション)

**ステップ 2** イベントを右クリックし、[クエリ パケット アナライザ (Query Packet Analyzer) ]を選択します。

使用可能なイベント データがクエリ フォームに事前に入力されます。

イベントまたはダッシュボード ページの時間枠でクエリのデフォルトの開始時刻と終了時刻が決まります。

**ステップ 3** 調査するチケットの数など、このクエリの名前を入力します。

**ステップ 4** 必要に応じてクエリ パラメータを編集します。

たとえば、30 秒ごとか、または数分ごとに時間枠を拡大してイベントに関してより多くのパケットをキャプチャします。

開始時刻と終了時刻の両方がないクエリの場合は、完了するまで時間がかかります。

アスタリスクの付いたフィールドには値が必要です。

[PCAP の分割 (Split Pcaps At) ]の値を大きくした場合は、選択したすべてのパケット アナライザ インスタンスと、クエリ結果を処理するその他のツールで入力するファイル サイズがサポートされていることを確認します。このオプションは、パケット アナライザ自体のクエリ ダイアログの [PCAP ファイルの最大サイズ (Max PCAP File Size) ] オプションです。

[プレビューのフィルタ処理 (Filter Preview) ]のクエリ文字列を編集する場合は注意が必要です。シンタックスは検証されません。

**ステップ 5** クエリを実行するパケット アナライザのインスタンスを選択します。

マルチドメイン展開環境では、現在のドメインと子孫のドメインから Cisco Security Packet Analyzer インスタンスを組み込むことができます。

**ステップ 6** [クエリ (Query) ]をクリックします。

---

### 次のタスク

クエリのステータスと結果を確認します。[パケット アナライザのクエリ ステータスの表示 \(7 ページ\)](#) および[パケット アナライザのクエリ結果の表示 \(8 ページ\)](#) を参照してください。

## パケットアナライザのクエリステータスの表示

スマートライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	Admin/Any Security Analyst

クエリステータス ページの各テーブル行にはすべての Cisco Security Packet Analyzer インスタンスの各クエリのステータスがまとめられており、行を展開することで個々のインスタンスの結果を表示できます。

マルチドメイン展開環境では、現在のドメインと子孫のドメインについてのみ、パケットアナライザのクエリステータスと結果を表示することができます。

### 手順

**ステップ 1** 次のいずれかを実行します。

- ウィンドウ上部にあるメニューバーの [メッセージセンター (Message Center)] アイコンをクリックし、次に [タスク (Tasks)] タブをクリックします。[クエリ パケットアナライザ (Query Packet Analyzers)] のタスクを検索し、[詳細の表示 (View Details)] または [結果の表示 (View Results)] をクリックします。
- [分析 (Analysis)] > [詳細 (Advanced)] > [パケットアナライザのクエリ (Packet Analyzer Queries)] を選択します。

**ステップ 2** クエリのステータスを特定するには、次を確認します。

[ステータス (Status)] 列には、クエリが正常に実行されたパケットアナライザインスタンスの数と、失敗したインスタンスの数が表示されます。特定のステータスを表示するには、カーソルをアイコンの上に置きます。

[継続時間 (Duration)] 列には、クエリが完了または失敗するまでにかかった時間が表示されます。

継続時間は、クエリ、ネットワーク状態などの特異性の影響を受けます。

**ステップ 3** 次のいずれかを実行します。

- クエリの結果を表示します。[パケットアナライザのクエリ結果の表示 \(8 ページ\)](#) を参照してください。
- どのパケットアナライザインスタンスが失敗したか、クエリの完了までに時間がかかったかを特定するには、キャレット記号をクリックしてクエリの行を展開した後、失敗したインスタンスや通常よりも長い時間を要したインスタンスを探します。
- 問題または予期していなかったステータスのトラブルシューティングを実行します。[Packet Analyzer クエリのトラブルシューティング \(9 ページ\)](#) を参照してください。

- 進行中のクエリをキャンセルするか、または個々のパケット アナライザ インスタンスのクエリをキャンセルします。キャンセルすると、パケットアナライザのクエリもキャンセルされます。
- 完了済みまたは失敗したクエリか、または個々のパケット アナライザ インスタンスのクエリを削除します。クエリを削除してもパケットアナライザでキャプチャされたデータは削除されません。

**ステップ 4** このページの結果を更新するには、ページをリロードします。

## パケット アナライザのクエリ結果の表示

スマート ライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	Admin/Any Security Analyst

Cisco Security Packet Analyzer でクエリに一致するパケットの表示および分析したり、または別のツールで表示および分析するパケットをダウンロードすることができます。

マルチドメイン展開環境では、現在のドメインと子孫のドメインについてのみ、パケットアナライザのクエリの結果を表示できます。

### 始める前に

表示するクエリの結果を保持するパケット アナライザ インスタンスにアクセスできる Cisco Security Packet Analyzer ユーザ アカウントのクレデンシャルがあることを確認します。

### 手順

**ステップ 1** [分析 (Analysis) ] > [詳細 (Advanced) ] > [パケット アナライザのクエリ (Packet Analyzer Queries) ] を選択します。

**ステップ 2** キャレット記号をクリックし、クエリに対応する行を展開します。

**ステップ 3** 次のアイコンが表示されている 1 つ以上のパケット アナライザ インスタンスを見つけます。



[該当なし (No results) ] は、クエリに一致するそのパケットアナライザインスタンスのパケットがなかったことを示します。

予想どおりの結果が得られなかった場合は、[Packet Analyzer クエリのトラブルシューティング \(9 ページ\)](#) を参照してください。

**ステップ 4** 次のいずれかを実行します。

- キャプチャしたパケットを Cisco Security Packet Analyzer で表示して処理するには、[open link] アイコン (🔗) をクリックします。



b) PCAP ファイルをダウンロードし、サードパーティ製のパケット分析ツールに表示するには、[download] アイコン (↓) をクリックします。

パケットアナライザインスタンスによって別の Web ブラウザ ウィンドウが開かれ、クレデンシャルが要求されます。

**ステップ 5** パケットアナライザにサインインします。

**ステップ 6** Firepower Management Center に戻り、ダウンロードアイコンかリンクを開くためのアイコンをもう一度クリックします。

**ステップ 7** キャプチャされたパケットを希望のアプリケーションまたはツールで処理します。たとえば、Cisco Security Packet Analyzer では、キャプチャされたパケットを復号してから、秘密キーの復号化やファイルの抽出などのタスクを実行して何が転送されたかを確認します。

## Packet Analyzer クエリのトラブルシューティング

### クエリの結果が出ない

考えられる原因と解決策：

- キャプチャセッションは、Packet Analyzer では実行されません。これが問題の原因である場合は、クエリを実行しているイベントのデータはありません。将来のイベントのパケット収集を有効にするには、パケットアナライザでキャプチャセッションを開始します。
- クエリの時間枠がキャプチャされたファイルの時間枠から外れているか、キャプチャセッションが上書きされています。
- Packet Analyzer が正しいパケットをキャプチャしていません。
- 関連データを含むキャプチャセッションファイルがバッファに書き込まれ続けています。ファイルへの書き込みが完了するまで、セッションに対するクエリを実行できません。数分間待つてからもう一度試してください。
- <https://www.cisco.com/c/en/us/support/security/security-packet-analyzer/products-user-guide-list.html> の *Cisco Security Packet Analyzer* ユーザガイドのトラブルシューティングの情報を参照してください。

### クエリに時間がかかりすぎる

- 各 Packet Analyzer で一度に 1 つのみのクエリを実行できます。特定のクエリに先立ってキューイングされた複数のクエリが存在する場合、クエリの完了までに長い時間がかかります。複数のクエリ送信元がある場合でも、存在するのは単一のキューです。
- 開始時刻と終了時刻を両方とも指定していないクエリの場合、プロセスの時間は大幅に長くなります。
- 開始時刻から終了時刻までの期間が長くなるほど、システムで検索を完了するのにかかる時間も長くなります。

## Web ベースのリソースを使用したイベントの調査

Firepower Management Center 外部の Web ベースのリソースにおける潜在的な脅威についての情報をすばやく検索するには、contextual cross-launch 機能を使用します。例：

- Cisco または既知の疑わしい脅威に関する情報を公開するサードパーティ製クラウドホスティングサービスの疑わしい送信元 IP アドレスを検索する、または
- 組織の履歴ログで特定の脅威に関する過去のインスタンスを検索する（組織がセキュリティ情報とイベント管理（SIEM）アプリケーションでそのデータを格納している場合）。
- 組織で Cisco AMP for Endpoints を導入している場合は、ファイルトラジェクトリ情報などの特定のファイルに関する情報を検索します。

イベントを調査する際は、Firepower Management Center のイベント ビューアまたはダッシュボードのイベントから直接、外部リソースの関連情報をクリックできます。これにより、その IP アドレス、ポート、プロトコル、ドメイン、または SHA 256 ハッシュに基づいて、特定のイベントに関連するコンテキストを迅速に収集できます。

たとえば、[上位攻撃者（Top Attackers）] ダッシュボードウィジェットを表示し、記載されている送信元 IP アドレスのいずれかに関する詳細情報を検索すると仮定します。この IP アドレスに関して、Talos がどのような情報を公開しているか確認したいので、「Talos IP」リソースを選択します。Talos Web サイトが開き、この特定の IP アドレスに関する情報が書かれたページが表示されます。

一般的に使用されているシスコやサードパーティ製の脅威インテリジェンスサービスへの一連の事前定義されたリンクから選択し、その他の Web ベースのインターフェイスおよび Web インターフェイスを持つ SIEM または他の製品へのカスタム リンクを追加できます。一部のリソースでは、アカウントまたは製品の購入が必要になる場合があります。

## コンテキスト クロス起動のリソースの管理について

[分析（Analysis）]>[詳細（Advanced）]>[コンテキストクロス起動（Contextual Cross-Launch）] ページを使用して外部の Web ベースのリソースを管理します。

シスコが提供している事前定義のリソースにはシスコのロゴが付いています。残りのリンクはサードパーティのリソースです。

必要がないリソースは無効にするか、または削除できます。あるいは、たとえば名前の前に小文字の「z」を追加するなどして名前を変更し、そのリソースをリストの下部に分類することができます。削除されたリソースは、元に戻すことはできませんが、再作成できます。

リソースを追加するには、[コンテキストクロス起動のリソースの追加（11 ページ）](#) を参照してください。

## カスタム コンテキスト クロス起動のリソースの要件

カスタム contextual cross-launch リソースを追加する場合は、次の点に留意します。

- リソースは Web ブラウザを介してアクセスできる必要があります。
- http プロトコルと https プロトコルのみがサポートされています。
- GET 要求のみがサポートされています。POST 要求はサポートされていません。
- URL の変数のエンコーディングはサポートされていません。IPv6 アドレスをエンコードするにはコロンで区切る必要がありますが、ほとんどのサービスでこのエンコーディングは必要ありません。
- 事前に定義されたリソースを含めて、最大 100 のリソースを設定できます。

## コンテキスト クロス起動のリソースの追加

スマート ライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	Admin/Security Analyst

脅威インテリジェンス サービスやセキュリティ情報とイベント管理 (SIEM) のツールなどの contextual cross-launch リソースを追加できます。

マルチドメイン展開環境では、親ドメインのリソースを表示および使用できますが、現在のドメインで実行できるのはリソースの作成と編集のみです。すべてのドメインのリソースの合計数は 100 に制限されています。

### 始める前に

- [カスタム コンテキスト クロス起動のリソースの要件 \(11 ページ\)](#) を参照してください。
- リソースに必要な場合は、アクセスに必要なアカウントとクレデンシャルにリンクするか、作成するか、または取得します。必要に応じて、アクセスが必要な各ユーザーにクレデンシャルを割り当てて配布します。
- リンク先のリソースのクエリ リンクのシンタックスを特定します。

ブラウザ経由でリソースにアクセスし、必要に応じてそのリソースのドキュメントを使用して、たとえば IP アドレスなど、検索するクエリ リンクの特定のタイプの情報の検索に必要なクエリ リンクを作成します。

クエリを実行して、結果の URL をブラウザのロケーション バーからコピーします。

たとえば、クエリ URL

**`https://www.talosintelligence.com/reputation_center/lookup?search=10.10.10.10`** が表示される場合があります。

## 手順

- ステップ1** [分析 (Analysis)] > [詳細 (Advanced)] > [コンテキストクロス起動 (Contextual Cross-Launch)] を選択します。
- ステップ2** [新しいクロス起動 (New Cross-Launch)] をクリックします。  
表示されたフォームのアスタリスクの付いたすべてのフィールドに値が必要です。
- ステップ3** 一意のリソース名を入力します。
- ステップ4** 作業中の URL の文字列をリソースから [URL テンプレート (URL Template)] フィールドに貼り付けます。
- ステップ5** クエリ文字列内の特定のデータ (IPアドレスなど) を適切な変数で置き換えます。変数を挿入するには、カーソルを置いて変数ボタン ([ip] など) を1回クリックします。  
上記の「開始する前に」の項の例では、URL は **https://www.talosintelligence.com/reputation\_center/lookup?search={ip}** になります。contextual cross-launch リンクを使用すると、URL 内の {ip} 変数は、イベントビューアまたはダッシュボードでユーザが右クリックする IP アドレスに置き換わります。  
各変数の説明については、変数ボタンの上にカーソルを置きます。  
1つのツールまたはサービスに複数の contextual cross-launch リンクを作成するには、それぞれに異なる変数を使用します。
- ステップ6** [データ例を使用したテスト (Test with example data)] アイコン (☒) をクリックしてデータ例を使用してリンクをテストします。
- ステップ7** 問題を修正します。
- ステップ8** [Save] をクリックします。

## コンテキストクロス起動を使用したイベントの調査

スマートライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	任意 (Any)	[管理者 (Admin)]/[セキュリティアナリスト (Security Analyst)]/[セキュリティアナリスト (読み取り専用) (Security Analyst (Read-only)) ]

### 始める前に

アクセスするリソースにクレデンシャルが必要な場合は、それらのクレデンシャルがあることを確認します。

### 手順

**ステップ 1** Firepower Management Center でイベントが表示される次のページのいずれかに移動します。

- ダッシュボード ([概要 (Overview)] > [ダッシュボード (Dashboards)])、または
- イベントビューアページ (イベントのテーブルが含まれている [分析 (Analysis)] メニューのメニュー オプション)

**ステップ 2** 対象のイベントを右クリックして、使用する **contextual cross-launch** のリソースを選択します。

必要に応じて、コンテキストメニューを下にスクロールして使用可能なすべてのオプションを確認します。

右クリックしたデータタイプによって表示されるオプションが異なります。たとえば、IP アドレスを右クリックした場合は、IP アドレスに関連する **contextual cross-launch** のオプションのみが表示されます。

そのため、たとえば、[上位攻撃者 (Top Attackers)] ダッシュボードウィジェットに送信元 IP アドレスに関して Cisco Talos からの脅威情報を表示させるには、[Talos SrcIP] または [Talos IP] を選択します。

リソースに複数の変数が含まれている場合、そのリソースを選択するオプションは、含まれている各変数に可能な 1 つの値を持つイベントにのみ使用できます。

別のブラウザウィンドウに **contextual cross-launch** のリソースが開きます。

クエリを実行するデータの量、リソースの速度と需要によってはクエリが処理されるまでに時間がかかる場合があります。

**ステップ 3** 必要に応じて、リソースにサインインします。

## 接続イベントと侵入イベントの **syslog** メッセージの送信について

接続、セキュリティインテリジェンス、および侵入イベントに関連するデータは、**syslog** を介してセキュリティ情報およびイベント管理 (SIEM) ツールまたは、などの Cisco Threat Response 外部のイベントストレージおよび管理ソリューションに送信できます。

また、このドキュメントではこれらのイベントを「セキュリティイベント」と呼ぶ場合もあります。

これらのイベントを Snort® イベントと呼ぶこともあります。

## syslog に接続と侵入イベントのデータを送信するためのシステムの設定について

セキュリティ イベントを syslog に送信するようにシステムを設定するには、次を知っておく必要があります。

- [セキュリティ イベント syslog メッセージングを設定するためのベストプラクティス](#)
- [セキュリティ イベントの syslog の設定場所 \(15 ページ\)](#)
- [セキュリティ イベントの syslog メッセージに適用する FTD プラットフォームの設定](#)
- ポリシーで syslog の設定を変更した場合、それらの変更を有効にするには展開する必要があります。

### セキュリティ イベント syslog メッセージングを設定するためのベストプラクティス

デバイスとバージョン	設定の場所
Firepower Threat Defense バージョン 6.3 以降	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. FTD プラットフォーム設定 ([デバイス (Devices)] &gt; [プラットフォーム設定 (Platform Settings)] &gt; [脅威に対する防御設定 (Threat Defense Settings)] &gt; [Syslog]) を設定します。  <a href="#">セキュリティ イベントの syslog メッセージに適用する FTD プラットフォームの設定</a>も参照してください。</li> <li>2. アクセスコントロールポリシーの [ロギング (Logging)] タブで、FTD プラットフォーム設定の使用を選択します。</li> <li>3. (侵入イベントの場合) アクセスコントロールポリシーの [ロギング (Logging)] タブの設定を使用するように侵入ポリシーを設定します。(これはデフォルトです)。</li> </ol> <p>これらの設定の上書きは推奨していません。</p>
その他のすべてのデバイス	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アラート応答を作成します。</li> <li>2. アラート応答を使用するには、アクセスコントロールポリシーの [ロギング (Logging)] タブを設定します。</li> <li>3. (侵入イベントの場合) 侵入ポリシーで syslog 設定を構成します。</li> </ol>

## セキュリティ イベントの syslog の設定場所

- [接続およびセキュリティ インテリジェンス イベントの syslog の設定場所 \(すべてのデバイス\) \(15 ページ\)](#)
- [侵入イベントの syslog の設定場所 \(FTD 6.3 デバイス\) \(18 ページ\)](#)
- [侵入イベントの syslog の設定場所 \(FTD 以外のデバイスと 6.3 よりも前のバージョン\) \(18 ページ\)](#)

### 接続およびセキュリティ インテリジェンス イベントの syslog の設定場所 (すべてのデバイス)


多くの場所でロギング設定を実行できます。次の表を使用して、必要なオプションが設定されていることを確認します。






#### 重要

- syslog の設定を行う場合、特に他の設定から継承したデフォルトを使用する際には細心の注意が必要です。下の表に示すように、オプションの中にはすべての管理対象デバイスモデルやソフトウェア バージョンに使用できないものもあります。
- 接続ロギングを設定する際の重要な情報については、[接続ロギング](#)の章を参照してください。

設定の場所	説明と詳細情報
[デバイス (Devices) ]>[プラットフォーム設定 (Platform Settings) ]、[Threat Defense 設定ポリシー (Threat Defense Settings policy) ]、[Syslog]	<p>このオプションは、バージョン 6.3 以降を実行している Firepower Threat Defense のデバイスにのみ適用されます。</p> <p>ここで行う設定は、アクセスコントロールポリシーのロギング設定に指定でき、この表の残りのポリシーとルールに使用するか、それらをオーバーライドできます。</p> <p><a href="#">セキュリティ イベントの syslog メッセージに適用する FTD プラットフォームの設定と Syslog について</a>およびサブトピックを参照してください。</p>

設定の場所	説明と詳細情報
[ポリシー (Policies) ]>[アクセス制御 (Access Control) ], <各ポリシー>、[ロギング (Logging) ] タブ	<p>ここで行う設定は、この表の残りの行で指定する場所の子孫のポリシーおよびルールにあるデフォルトをオーバーライドしない限り、すべての接続イベントとセキュリティインテリジェンスイベントの syslog のデフォルト設定になります。</p> <p>6.3 以降を実行している FTD デバイスの推奨設定 : FTD プラットフォーム設定を使用します。詳細については、<a href="#">セキュリティイベントの syslog メッセージに適用する FTD プラットフォームの設定と Syslog について</a> およびサブトピックを参照してください。</p> <p>その他のすべてのデバイスに必要な設定 : syslog アラートを使用します。</p> <p>syslog アラートを指定する場合は、<a href="#">Syslog アラート応答の作成</a>を参照してください。</p> <p>[ロギング (Logging) ] タブの設定に関する詳細については、<a href="#">ロギングの設定</a>を参照してください。</p>
[ポリシー (Policies) ]>[アクセス制御 (Access Control) ], <各ポリシー> [ルール (Rules) ] タブ、[デフォルトアクション (Default Action) ] 行、[ロギング (Logging) ] ボタン (  ) )	<p>ロギングのアクセスコントロールポリシーに関連付けられているデフォルト アクションを設定します。</p> <p><a href="#">アクセスコントロールルール章とポリシーのデフォルトアクションによる接続のロギング</a>のロギングに関する情報を参照してください。</p>
[ポリシー (Policies) ]>[アクセス制御 (Access Control) ], <各ポリシー>、[ルール (Rules) ] タブ、<各ルール>、[ロギング (Logging) ] タブ	<p>特定のルールの設定をアクセス制御ポリシーにログインします。</p> <p><a href="#">アクセスコントロールルール章</a>のロギングに関する情報を参照してください。</p>



設定の場所	説明と詳細情報
[ポリシー (Policies) ]>[アクセス制御 (Access Control) ]、<各ポリシー>、[セキュリティ インテリジェンス (Security Intelligence) ] タブ、[ロギング オプション (Logging Options) ] ボタン (  )	<p>セキュリティ インテリジェンス ブラックリストのロギング設定</p> <p>次のボタンをクリックして設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• [DNS ブラックリスト ロギング オプション (DNS Blacklist Logging Options) ]</li> <li>• [URL ブラックリスト ロギング オプション (URL Blacklist Logging Options) ]</li> <li>• [ネットワーク ブラックリスト ロギング オプション (Network Blacklist Logging Options) ] (ブロックされたリスト上の IP アドレス用)</li> </ul> <p>前提条件を含めて<a href="#">セキュリティ インテリジェンスの設定とサブトピックおよびリンク</a>を参照してください。</p>
[ポリシー (Policies) ]>[SSL]、[デフォルトアクション (Default Action) ]行、[ロギング (Logging) ] (  ) ボタン	<p>SSL ポリシーに関連付けられているデフォルト アクションのロギング設定。</p> <p><a href="#">ポリシーのデフォルト アクションによる接続のロギング</a>を参照してください。</p>
[ポリシー (Policies) ]>[SSL]、<各ポリシー>、<各ルール>、[ロギング (Logging) ] タブ	<p>SSL ルールのロギング設定。</p> <p><a href="#">TLS/SSL ルールのコンポーネント</a>を参照してください。</p>
[ポリシー (Policies) ]>[プレフィルタ (Prefilter) ]、<各ポリシー>、[デフォルト アクション (Default Action) ]行、[ロギング (Logging) ] (  ) ボタン	<p>プレフィルタ ポリシーに関連付けられているデフォルト アクションのロギング設定。</p> <p><a href="#">ポリシーのデフォルト アクションによる接続のロギング</a>を参照してください。</p>
[ポリシー (Policies) ]>[プレフィルタ (Prefilter) ]、<各ポリシー>、<各プレフィルタ>、[ロギング (Logging) ] タブ	<p>プレフィルタ ポリシーの各プレフィルタのロギング設定。</p> <p><a href="#">トンネルとプレフィルタ ルールのコンポーネント</a>を参照してください</p>
[ポリシー (Policies) ]>[プレフィルタ (Prefilter) ]、<各ポリシー>、<各トンネルルール>、[ロギング (Logging) ] タブ	<p>プレフィルタ ポリシーの各トンネルルールのロギング設定。</p> <p><a href="#">トンネルとプレフィルタ ルールのコンポーネント</a>を参照してください</p>
FTD クラスタ設定の追加 syslog の設定 :	<p><a href="#">Firepower Threat Defense 用のクラスタリング</a>の章には syslog について複数の言及があります。「syslog」の章を検索してください。</p>

## 侵入イベントの syslog の設定場所 (FTD 6.3 デバイス)

侵入ポリシーの syslog 設定はさまざまな場所で指定でき、必要に応じてアクセス コントロール ポリシーまたは FTD プラットフォーム設定、あるいはその両方から設定を継承できます。

設定の場所	説明と詳細情報
[デバイス (Devices) ]>[プラットフォーム設定 (Platform Settings) ]、[Threat Defense 設定ポリシー (Threat Defense Settings policy) ]、[Syslog]	ここで設定した syslog の宛先は、侵入ポリシーのデフォルトとして使用可能なアクセス コントロール ポリシーの [ロギング (Logging) ] タブで指定できます。  セキュリティ イベントの syslog メッセージに適用する FTD プラットフォームの設定と Syslog についておよびサブトピックを参照してください。
[ポリシー (Policies) ]>[アクセス制御 (Access Control) ]、<各ポリシー>、[ロギング (Logging) ] タブ	侵入ポリシーに他のロギング ホストが指定されていない場合は、侵入イベントの syslog の宛先のデフォルト設定。  ロギングの設定を参照してください。
[ポリシー (Policies) ]>[侵入 (Intrusion) ]、<各ポリシー>、[詳細設定 (Advanced Settings) ]、[syslog アラート (Syslog Alerting) ]を有効化、[編集 (Edit) ]をクリック	アクセス コントロール ポリシーの [ロギング (Logging) ] タブで指定した宛先以外の syslog コレクタを指定するには、侵入イベントの Syslog アラートの設定を参照してください。  [重大度 (Severity) ] または [ファシリティ (Facility) ]、あるいはその両方を侵入ポリシーで設定されているとおりに使用する場合は、ポリシーにロギング ホストを設定する必要があります。アクセス コントロール ポリシーに指定されているロギング ホストを使用する場合は、侵入ポリシーに指定されている重大度とファシリティは使用されません。

## 侵入イベントの syslog の設定場所 (FTD 以外のデバイスと 6.3 よりも前のバージョン)

- (デフォルト) アクセス コントロール ポリシー (ロギングの設定 syslog アラートを指定した場合) (Syslog アラート応答の作成を参照)
- または侵入イベントの Syslog アラートの設定を参照してください。

デフォルトでは、侵入ポリシーはアクセス コントロール ポリシーの [ロギング (Logging) ] タブの設定を使用します。FTD 6.3 以外のデバイスに適用される設定がない場合は、FTD 6.3 以外のデバイスに syslog は送信されず、警告は表示されません。

## 接続と侵入イベントの syslog メッセージの分析

FTD 6.3 以降からのセキュリティ イベントメッセージの例（侵入イベント）

1	2	3	4	5	6
<hr/>					
Sep 24 13:42:01 192.168.0.81 SFIMS : %FTD-5-430001:SrcIP:					
192.168.1.10, DstIP: 192.168.1.102, SrcPort: 33994, DstPort: 445,					
Protocol: tcp, Priority: 2, GID: 133, SID: 17, Revision: 2,					
Message: "DCE2_EVENT__SMB_INVALID_DSIZE", Classification:					
Potentially Bad Traffic, User: No Authentication Required,					
Client: NetBIOS-ssn (SMB) client, ApplicationProtocol: NetBIOS-					
ssn (SMB), ACPolicy: test, NAPPolicy: Balanced Security and					
Connectivity, InlineResult: Blocked					

表 1: セキュリティイベントの syslog メッセージのコンポーネント

サンプルメッセージの項目数	ヘッダー要素	説明
1	タイムスタンプ	<p>syslog メッセージがデバイスから送信された日付と時刻。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>（バージョン 6.3 以降を実行している FTD デバイスから送信された syslog）アクセスコントロールポリシーとその子孫の設定を使用して送信した syslog の場合か、または [FTD プラットフォーム設定 (FTD Platform Settings)] のこの形式を使用するように指定されている場合、日付形式は RFC 5424 に指定されている ISO 8601 タイムスタンプ形式 (yyyy-MM-ddTHH:mm:ssZ) に定義されている形式になります。この形式では文字 Z は UTC タイムゾーンを示しています。</li> <li>（バージョン 6.3 以降を実行しているその他すべてのデバイスから送信された syslog）アクセスコントロールポリシーとその子孫の設定を使用して送信した syslog の場合、日付形式は RFC 5424 に指定されている ISO 8601 タイムスタンプ形式 (yyyy-MM-ddTHH:mm:ssZ) に定義されている形式になります。この形式では文字 Z は UTC タイムゾーンを示しています。</li> <li>それ以外の場合は UTC タイムゾーンの月、日、時刻になりますが、タイムゾーンは表示されません。</li> </ul> <p>[FTD プラットフォーム設定 (FTD Platform Settings)] のタイムスタンプの設定を行うには、<a href="#">Syslog 設定</a>を参照してください。</p>
2	<p>メッセージが送信されたデバイスまたはインターフェイス。</p> <p>ここに表示される値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• インターフェイスの IP アドレス</li> <li>• デバイスのホスト名</li> <li>• カスタムデバイス識別子</li> </ul>	<p>(FTD デバイス バージョン 6.3 以降のみから送信された syslog の場合)</p> <p>[FTD プラットフォーム設定 (FTD Platform Settings)] を使用して syslog メッセージが送信された場合で、[Syslog デバイス ID の有効化 (Enable Syslog Device ID)] オプションが指定されているときは、これはそのオプションの [Syslog 設定 (Syslog Settings)] タブに設定されている値になります。</p> <p>それ以外の場合、この要素はヘッダーには表示されません。</p> <p>[FTD プラットフォーム設定 (FTD Platform Settings)] でこの設定を行うには、<a href="#">Syslog 設定</a>を参照してください。</p>

サンプルメッセージの項目数	ヘッダー要素	説明
3	カスタム値	アラート応答を使用してメッセージが送信された場合、これは、メッセージを送信したアラート応答に設定されているタグ値がある場合は、その値になります。 <a href="#">(Syslogアラート応答の作成を参照)</a> 。 それ以外の場合、この要素はヘッダーには表示されません。
4	%FTD %NGIPS	メッセージを送信したデバイスのタイプ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• %FTD は Firepower Threat Defense バージョン 6.3 以降</li> <li>• %NGIPS はバージョン 6.3 以降を実行している他のすべてのデバイス</li> <li>• バージョン 6.2.3 以前を実行しているデバイスから送信されたメッセージの場合、この要素は表示されません。</li> </ul>
5	Severity	メッセージをトリガーしたポリシーの syslog 設定に指定されている重要度。 重大度の説明については、 <a href="#">重大度またはsyslog 重大度レベル</a> を参照してください。
6	イベントタイプ識別子	バージョン 6.3 以降を実行しているデバイスから送信されたメッセージの場合： <ul style="list-style-type: none"> <li>• 430001：侵入イベント</li> <li>• 430002：接続の開始時に記録された接続イベント</li> <li>• 430003：接続の終了時に記録された接続イベント</li> </ul> バージョン 6.2.3 以前を実行しているデバイスから送信されたメッセージの場合、イベントタイプ識別子は表示されません。
--	ファシリティ	<a href="#">セキュリティイベントのsyslogメッセージのファシリティ (22 ページ)</a> を参照してください。

サンプル メッ セー ジ の 項 目 数	ヘッダー要素	説明
--	メッセージの残りの部分	<p>コロンで区切られたフィールドと値。</p> <p>空または不明な値のあるフィールドはメッセージから省略されます。</p> <p>フィールドの説明については、次を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <a href="#">接続イベントとセキュリティインテリジェンスイベントのフィールド</a>。</li> <li>• <a href="#">侵入イベントフィールド</a></li> </ul> <p>(注) フィールド説明のリストには、syslogフィールドとイベントビューア (Firepower Management Center の Web インターフェイスの [分析 (Analysis) ] メニューのメニュー オプション) に表示されるフィールドの両方が含まれています。syslog 経由で使用可能なフィールドはそれを示すラベルが付けられます。</p> <p>イベントビューアに表示される一部のフィールドは、syslog 経由では使用できません。また、一部の syslog フィールドはイベントビューアには含まれていません (ただし、検索を使用すると表示できる場合があります)。また、一部のフィールドは結合されているか、または個別になっています。</p>

## セキュリティ イベントの syslog メッセージのファシリティ

一般に、セキュリティ イベントの syslog メッセージではファシリティ値は関連性がありません。ただし、ファシリティが必要な場合は、次の表を使用してください。

Device	接続イベントにファシリティを含める場合	侵入イベントにファシリティを含める場合	syslog メッセージ内の場所
FTD 6.3 以降	[FTD プラットフォーム設定 (FTD Platform Settings) ] の [EMBLEM] オプションを使用します。  [FTD プラットフォーム設定 (FTD Platform Settings) ] を使用して syslog メッセージを送信すると、ファシリティは常に、接続イベントに対して [アラート (ALERT) ] になります。	[FTD プラットフォーム設定 (FTD Platform Settings) ] の [EMBLEM] オプションを使用するか、または侵入ポリシーの syslog 設定を使用してロギングを設定します。侵入ポリシーを使用した場合は、侵入ポリシー設定にロギングホストも指定する必要があります。	ファシリティはメッセージヘッダーには表示されませんが、syslog コレクタが RFC 5424、セクション 6.2.1 に基づいて値を派生させることができます。
6.3 より前の FTD	アラート応答を使用します。	侵入ポリシーの高度な設定の syslog 設定、またはアクセスコントロールポリシーの [ロギング (Logging) ] タブで識別されているアラート応答を使用します。	
FTD 以外のデバイス	アラート応答を使用します。	侵入ポリシーの高度な設定の syslog 設定、またはアクセスコントロールポリシーの [ロギング (Logging) ] タブで識別されているアラート応答を使用します。	

詳細については、[侵入 syslog アラートの重大度および Syslog アラート応答の作成](#)を参照してください。

## Firepower syslog メッセージのタイプ

Firepower は、次の表で説明するように、複数の syslog データ タイプを送信できます。

syslog データ タイプ	参照先
FMC からの監査ログ	<a href="#">syslog への監査ログのストリーミングおよびシステムの監査の章</a>

syslog データ タイプ	参照先
従来型デバイス（7000/8000 シリーズ、ASA FirePOWER、NGIPSv）からの監査ログ	従来型デバイスからの監査ログのストリーミングおよびシステムの監査の章 CLI コマンド： <code>syslog</code>
FTD デバイスからのデバイスヘルスとネットワーク関連のログ	<a href="#">Syslog について</a> およびサブトピック
FTD デバイスからの接続、セキュリティインテリジェンスおよび侵入イベント ログ	<a href="#">syslog に接続と侵入イベントのデータを送信するためのシステムの設定について</a> （14 ページ）。
クラシック デバイスからの接続、セキュリティインテリジェンスおよび侵入イベント ログ	<a href="#">syslog に接続と侵入イベントのデータを送信するためのシステムの設定について</a> （14 ページ）

## eStreamer サーバストリーミング

Event Streamer (eStreamer) を使用すると、Firepower Management Center または 7000 または 8000 シリーズ デバイスからの数種類のイベントデータを、カスタム開発されたクライアントアプリケーションにストリーム配信できます。詳細については、*Firepower システム イベント ストリーマ統合ガイド (Firepower System Event Streamer Integration Guide)* を参照してください。

eStreamer サーバとして使用するアプライアンスで eStreamer イベントの外部クライアントへのストリームを開始するには、その前に、イベントをクライアントに送信するように eStreamer サーバを設定し、クライアントに関する情報を指定して、通信を確立するときに使用する認証クレデンシャルを生成する必要があります。アプライアンスのユーザインターフェイスからこれらすべてのタスクを実行できます。設定が保存されると、選択したイベントが、要求時に、eStreamer クライアントに転送されます。

要求したクライアントに eStreamer サーバが送信できるイベント タイプを制御できます。

表 2: eStreamer サーバで送信可能なイベント タイプ

イベントタイプ (Event Type)	説明	FMC で使用可能	7000 & 8000 シリーズ デバイスで使用可能
侵入イベント	管理対象デバイスによって生成される侵入イベント	可	可
侵入イベント パケット データ	侵入イベントに関連付けられたパケット	可	可



イベントタイプ (Event Type)	説明	FMC で使用可能	7000 & 8000 シリーズ デバイスで 使用可能
侵入イベント追加データ	HTTP プロキシまたはロードバランサ経由で Web サーバに接続しているクライアントの発信元 IP アドレスのような侵入イベントに関連付けられた追加データ	可	可
検出イベント	ネットワーク検出イベント	Yes	No
相関およびホワイトリストイベント	相関およびホワイトリストイベント	Yes	No
インパクトフラグアラート	FMC によって生成されたインパクトアラート	Yes	No
ユーザ イベント	ユーザ イベント	Yes	No
マルウェア イベント	マルウェア イベント	Yes	No
ファイル イベント	ファイル イベント	Yes	No
接続イベント	モニタ対象のホストとその他のすべてのホスト間のセッショントラフィックに関する情報	可	可

## セキュリティ イベントの syslog と eStreamer の比較

一般に、現在 eStreamer に重大な既存イベントがない組織は、セキュリティイベントデータを外部で管理するのに eStreamer ではなく syslog を使用する必要があります。

Syslog	eStreamer
カスタマイズの必要なし	各リリースの変更に対応するには、大幅なカスタマイズと継続メンテナンスが必要
標準 (Standard)	専用
syslog 標準規格では、データ損失に対する保護はありません (特に UDP を使用している場合)	データ損失に対する保護
デバイスから直接送信	FMC から送信 (処理オーバーヘッドが加わる)

Syslog	eStreamer
接続イベント（セキュリティ インテリジェンス イベントを含む）、および侵入イベントをサポートします。	eStreamer サーバストリーミング（24 ページ）に示されているすべてのイベント タイプをサポートします。
一部のイベントデータは、FMC からのみ送信できます。eStreamer 経由でのみ送信でき、syslog 経由では送信できないデータ（26 ページ）を参照してください。	デバイスから syslog を介して直接送信することができないデータが含まれます。eStreamer 経由でのみ送信でき、syslog 経由では送信できないデータ（26 ページ）を参照してください。

## eStreamer 経由でのみ送信でき、syslog 経由では送信できないデータ

次のデータは Firepower Management Center からのみ使用可能であるため、デバイスから syslog を介して送信することはできません。

- パケット ログ
- 侵入イベント追加データ イベント
  - 説明については、[eStreamer サーバストリーミング（24 ページ）](#)を参照してください。
- 統計情報と集約イベント
- ネットワーク検出イベント
- ユーザ アクティビティとログイン イベント
- 関連イベント
- ホワイトリスト イベント
- ファイルおよびマルウェアのイベント
- 次のフィールド：
  - [Impact] および [ImpactFlag] フィールド
    - 説明については、[eStreamer サーバストリーミング（24 ページ）](#)を参照してください。
  - [IOC\_Count] フィールド
- ほとんどの raw ID と UUID。
  - 次に例外を示します。
    - 接続イベントの syslog には次のものがあります。FirewallPolicyUUID、FirewallRuleID、TunnelRuleID、MonitorRuleID、SI\_CategoryID、SSL\_PolicyUUID、および SSL\_RuleID
    - 侵入イベントの syslog には、IntrusionPolicyUUID、GeneratorID、および SignatureID が含まれます。

- 以下を含むがこれらに限定されない拡張メタデータ：
    - 氏名、部署、電話番号などの LDAP によって提供されるユーザの詳細。  
syslog では、イベントのユーザ名のみが提供されます。
    - SSL 証明書の詳細などの状態ベースの情報の詳細。  
syslog は、証明書のフィンガープリントなどの基本的な情報を提供しますが、cert CN など、証明書のその他の詳細は提供しません。
    - アプリケーション タグやカテゴリなどの詳細なアプリケーション情報。  
syslog はアプリケーション名のみを提供します。
- 一部のメタデータ メッセージには、オブジェクトに関する追加情報も含まれています。
- 地理位置情報

## eStreamer イベントタイプの選択

スマート ライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
機能に応じて異なる	機能に応じて異なる	FMC 7000 & 8000 シリーズ	任意 (Any)	Admin

eStreamer サーバで送信可能なイベントの [eStreamer イベント設定 (eStreamer Event Configuration) ]チェックボックス管理。クライアントは、eStreamer サーバに送信する要求メッセージで受信するイベントタイプを具体的に要求する必要があります。詳細については、*Firepower システム イベントストリーマ統合ガイド (Firepower System Event Streamer Integration Guide)* を参照してください。

マルチドメイン展開では、どのドメインのレベルでも eStreamer のイベント構成を設定できます。ただし、先祖ドメインで特定のイベントタイプが有効になっている場合は、子孫ドメインのそのイベントタイプを無効にすることはできません。

### 手順

- ステップ 1 [System] > [Integration] を選択します。
- ステップ 2 [eStreamer] タブをクリックします。
- ステップ 3 [eStreamer イベント設定 (eStreamer Event Configuration) ] の下で、[eStreamer サーバストリーミング \(24 ページ\)](#) の説明に従って要求元のクライアントに転送するイベントタイプの横にあるチェックボックスをオンまたはオフにします。
- ステップ 4 [保存 (Save) ] をクリックします。

## eStreamer クライアント通信の設定

スマートライセンス	従来のライセンス	サポートされるデバイス	サポートされるドメイン	アクセス (Access)
機能に応じて異なる	機能に応じて異なる	FMC 7000 & 8000 シリーズ	任意 (Any)	Admin/Discovery Admin

eStreamer がクライアントに eStreamer イベントを送信するには、その前に、eStreamer ページから eStreamer サーバのピア データベースにクライアントを追加しておく必要があります。また、eStreamer サーバによって生成された認証証明書をクライアントにコピーする必要があります。この手順を完了した後、クライアントが eStreamer サーバに接続できるように eStreamer サービスを再起動する必要はありません。

マルチドメイン展開では、任意のドメインで eStreamer クライアントを作成できます。認証証明書では、クライアントはクライアント証明書のドメインと子孫ドメインからのみイベントを要求することが許可されます。eStreamer 設定ページには、現在のドメインに関連付けられているクライアントのみが表示されるため、証明書をダウンロードまたは取り消す場合は、クライアントが作成されたドメインに切り替えます。

### 手順

- ステップ 1 **[System] > [Integration]** を選択します。
- ステップ 2 **[eStreamer]** タブをクリックします。
- ステップ 3 **[クライアントの作成 (Create Client)]** をクリックします。
- ステップ 4 **[ホスト名 (Hostname)]** フィールドに、eStreamer クライアントを実行しているホストのホスト名または IP アドレスを入力します。  
(注) DNS 解決を設定していない場合は、IP アドレスを使用します。
- ステップ 5 証明書ファイルを暗号化するには、**[パスワード (Password)]** フィールドにパスワードを入力します。
- ステップ 6 **[Save]** をクリックします。  
これで、eStreamer サーバは、ホストが eStreamer サーバ上のポート 8302 にアクセスすることを許可し、クライアント/サーバ認証時に使用する認証証明書を作成します。
- ステップ 7 クライアントのホスト名の横にあるファイルのダウンロードアイコン (📄) をクリックして、証明書ファイルをダウンロードします。
- ステップ 8 SSL 認証のためにクライアントが使用する適切なディレクトリに証明書ファイルを保存します。
- ステップ 9 クライアントのアクセスを取り消すには、削除するホストの横にある削除アイコン (🗑️) をクリックします。

eStreamer サービスを再起動する必要はありません。アクセスはただちに取り消されます。

## 外部ツールを使用したイベント データの分析の履歴

機能	バージョン (Version)	詳細
Splunk との統合	すべての 6.x バージョンのサポート	<p>Splunk のユーザは、新しい個別の Splunk アプリケーションである Cisco Firepower App for Splunk を使用してイベントを分析できます。</p> <p>どの機能を使用できるかは、Firepower のバージョンによって異なります。</p> <p><a href="#">Splunk でのイベント分析 (1 ページ)</a> を参照してください。</p>
Cisco Security Packet Analyzer との統合	6.3	<p>導入された機能：Cisco Security Packet Analyzer にイベントに関連するパケットについてすぐにクエリを実行した後、クリックして Cisco Security Packet Analyzer の結果を調べるか、またはダウンロードして別の外部ツールで分析します。</p> <p>新規画面：</p> <p>[システム (System) ] &gt; [統合 (Integration) ] &gt; [パケットアナライザ (Packet Analyzer) ]</p> <p>[分析 (Analysis) ] &gt; [詳細 (Advanced) ] &gt; [パケットアナライザのクエリ (Packet Analyzer Queries) ]</p> <p>新規メニュー オプション：[ダッシュボード (Dashboard) ] ページおよび [分析 (Analysis) ] メニューのページのイベントテーブルを右クリックしたときの [クエリ パケットアナライザ (Query Packet Analyzer) ] のメニュー項目</p> <p>サポートされるプラットフォーム Firepower Management Center</p>

機能	バージョン (Version)	詳細
コンテキストクロス起動	6.3	<p>導入された機能：イベントを右クリックし、事前に定義されているか、またはカスタム URL ベースの外部リソースの関連情報を検索します。</p> <p>新規画面：[分析 (Analysis)] &gt; [詳細 (Advanced)] &gt; [コンテキストクロス起動 (Contextual Cross-Launch)]</p> <p>新規メニュー オプション：[ダッシュボード (Dashboard)] ページおよび [分析 (Analysis)] メニュー ページのイベントテーブルを右クリックしたときに表示される複数のオプション</p> <p>サポートされるプラットフォーム Firepower Management Center</p>
接続イベントと侵入イベントの syslog メッセージ	6.3	<p>統合され、簡略化された新しい設定を使用して、完全修飾接続および侵入イベントを外部ストレージおよびツールに syslog 経由で送信する機能。メッセージヘッダーが標準化されてイベントタイプ識別子が組み込まれ、メッセージが小型になりました。これは、不明な値や空の値が含まれたフィールドが省略されるためです。</p> <p>サポート対象プラットフォーム：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• すべての新機能：バージョン 6.3 を実行している FTD デバイス。</li> <li>• 一部の新機能：バージョン 6.3 を実行している FTD 以外のデバイス。</li> <li>• 少数の新機能：6.3 よりも前のバージョンを実行しているすべてのデバイス。</li> </ul> <p>詳細については、<a href="#">接続イベントと侵入イベントの syslog メッセージの送信について (13 ページ)</a> のトピックとサブトピックを参照してください。</p>

機能	バージョン (Version)	詳細
eStreamer	6.3	eStreamer の内容をホストのアイデンティティソースに関する章からこの章に移動し、eStreamer と syslog を比較した概要を追加しました。

